

# 製品に込められた思いを ネームという限られたサイズの中に表現していく。

片山真梨子

企画課 課長 / デザイン・営業支援

元々洋服が好きだったという片山さん。学生時代は、服飾デザインを学びましたが、アパレル業界に就職せず別の業界で仕事をしていたそう。しかし、倉敷に戻るのをきっかけに転職を考えた際に「自分のスキルを活かせる仕事で、アパレル関係なら尚いいな」との思いから、現在の会社に入社しました。入社後は、企画課の立ち上げに関わり、入社10年目となる現在まで企画課の運営全てに携わってきました。

「副資材のデザインは、印刷やグラフィックデザインに加え、織物や刺繍の特徴を理解していないとできない仕事です。また、お客様がイメージされるネームは、実際に作れるのか？できあがったものはどうなるのか？を想像しながらデザインします。どんなにいいデザインができたとしても、デザイン通りに生産できなければ意味がありません。また、製品に取り付けられなかったり、製品価値を損ねてしまったりしては意味がありません。お客様の製品や製品に込める思いに寄り添ったものになるようにいつも心がけています。」いい意味で「パーツ」らしいものが作れるよう、自社のパーツが取り付けられた製品の全体像をしっかりイメージするそうです。「いつも営業と一緒に『どうすればお客様が依頼をくださるか』『どんな内容で提案すればよいか』などを考えます。お客様から弊社に依頼が入るようになる＝お客様のご要望と私たちが考えたことが繋がった瞬間だと思うのでとても嬉しく思います。」



## もっと生の声

### Q & A

- 今の仕事に就いて良かったことはありますか？  
この仕事を始めてから、同じ繊維産業で働く学生時代の同級生に会うことがあります。その時は、嬉しくもありますし、自分も頑張ろうと元気をもらいます。これも地元繊維産地で働く魅力の一つかもしれませんね。
- 思い出に残っているエピソードはありますか？  
入社して間もない頃、組成表示を作る仕事でミスをしました。正しくは「ポリエステル」なのに、私が作成したデータは「ポリステル」になっており、この表示がもし縫製されていたら…と担当者から注意され、ゾッとしたのを覚えています。その時の気持ちを忘れないために、その組成表示のパーツはいつも目に触れる所に置いています。
- 将来繊維業界に従事する人へのメッセージをください。  
「職業：アパレル関係」というのはよく目にしますが、実際にこうして「アパレル関係」の仕事してみると、その言葉でひとくくりにするのは難しいほどたくさんジャンルの種類の仕事がその中に含まれていることに気がきます。繊維産業の中で何をしようかと迷われている方は、是非先輩方の声を聞いたり、調べてみたりしてください。きっと、思いもよらない仕事に出会えると思います。

